|  |
| --- |
| **1【演題名の入力】** |
| 行 | 和文タイトル　全角33文字×2行以内 |
| 12 | 第34回日本ハンドセラピィ学会学術集会 |
| 行 | 英文タイトル　2行以内 |
| 12 | The 34th Annual Meeting of Japan Hand Therapy Society |
| **2【演者名の入力】**＊上付き文字で所属番号を付記 |
| **筆頭演者** |
| 日本語 | 杉野美里1 | 英語 | Misato Sugino |
| **共同演者** |
| １人目 | 濱田ゆかり1 | 2人目 | 木下孝雄1 |
| 3人目 | 山田玄太2 | 4人目 |  |
| **3【所属名の入力】**＊上付き文字で所属番号を付記 |
| 所属番号 |  |
| 1 | 貞松病院　リハビリテーション科1 |
| 2 | 愛野記念病院　手外科センター2 |
| 3 |  |
| 4 |  |
| 5 |  |
| **4【Key Wordsの入力】** ＊第1は，手引きから選択 |
| 第1 | 骨折 |
| 第2 | スプリント |
| 第3 | 外傷性末梢神経損傷 |

|  |
| --- |
| **5【本文の入力】** |
| 行 | 全角40文字×30行 |
| 123456789101112131415161718192021222324252627282930 | 【緒言】時下，ますますご清栄のこととお慶び申し上げます．平素より日本ハンドセラピィ学会の活動に際しまして,格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます．本学会は1988年に任意団体として発足し，2012年には法人格を取得，本年度はその10年目の節目となり一般社団法人日本ハンドセラピィ学会として，現在までハンドセラピィの発展に寄与しております．【対象・方法】ハンドセラピィ（Hand Therapy）とは，手に損傷や障害を受けた人が，再び「Useful Hand（実際に生活する手）」を獲得するために行われる包括的な治療で，対象者の生活や個別性に合わせて創造的に展開し，対象者の生活の再構築を目指します．本学会には現在約800名の作業療法士，理学療法士が所属し，学術集会の開催,学術誌の発刊などの学術的な活動のほか,ハンドセラピィの知識・技能の研鑽と，質の高いハンドセラピスト育成のための各種講習会の開催，またアジア諸国および世界においても国際的な貢献と交流の発展のため，精力的に取り組んでいます．【結果】この度，第65回日本手外科学会学術集会会長ならびに日本手外科学会の諸先生方よりご厚情を賜り，2022年4月16日（土），17日（日）に北九州国際会議場（福岡県北九州市）にて第34回日本ハンドセラピィ学会学術集会を開催する運びとなりました．本学術集会では「ハンドセラピィを紐解き，紡ぐ」をテーマといたしました．日本ハンドセラピィ学会の積み重ねられた歴史とハンドセラピィの基礎を紐解きながら，ハンドセラピィの新しい時代に向け，多角的観点からのセラピィに目を向け，より効果的な技術，知識の獲得を目指します．ハンドセラピィの英知を結集するべく学術的な研究や講演，発表など企画し，皆様とより『進化・深化』したハンドセラピィを紡いでいけるような機会になることを期待しております．【考察】新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックをきっかけに，学会開催形式に関して，本学会もオンデマンド学会，ハイブリッド学会とニューノーマルに向け新しい学会の開催方法を模索しております．第34回学会も北九州での現地での開催を軸に，学会の空気感，人と人とのコミュニケーションを通じた熱いディスカッションを大切にしながら，社会情勢に応じて開催方式も柔軟に対応していきたいと思っております．学術集会が盛会となるよう実行委員一同，誠心誠意，準備をすすめている次第です．本来ならば参上し，お願いすべきことではございますが，何卒この趣旨にご賛同いただきまして，本書面を借りて各位の格別のご高配・ご支援を賜りますよう，切にお願い申し上げます．末筆ながら，ご自愛のほどお祈り申し上げます． |

☑　チェックリスト　☑

□　文章は十分に推敲されていますか？

□　誤字・脱字などはございませんか？
□　文字フォント，改行箇所は遵守されていますか？

□　行数の指定は，変更せず遵守されていますか？